

## 平成20年度に実施する研究内容

### 浅海環境部

部長 上原子 次 男

4月の人事異動で前任の工藤部長に替わり、水産振興課から浅海環境部に異動しました。ふるさと食品研究センターへ小野寺主任研究員が転出し、魚類部から小泉技師が配置換えになっております。

留任の兜森研究管理員、吉田研究管理員、高坂主任研究員、小笠原技師を加えた6名で事業に取り組んでいきますので、よろしくお祈いします。

本年度の主な事業と担当は次のとおりです。

#### 1 陸奥湾海況自動観測

3基の自動観測ブイによる水温、塩分、溶存酸素、流れなどの毎時連続観測と当研究所地先での平日9時の定地観測を行い、これらの観測結果をもとに、毎週1回、陸奥湾海況情報を作成し、漁協等関係機関へFAXで送信し、ホームページにも掲載します。また、観測結果は、陸奥湾の海況研究にも使われます。(兜森研究管理員ほか)

#### 2 浅海定線調査

陸奥湾の海況の特徴や経年変化を把握するため、試験船「なつどまり」(乗組員は山田船長ほか5名)で、

毎月1回、海洋観測を行います。(小泉技師ほか)

#### 3 漁場環境監視調査

陸奥湾の漁場環境の動向を把握し、保全を図るため、試験船「なつどまり」で水質調査(月1回)、底質及び底生生物調査(年2回)を行います。(高坂主任研究員ほか)

#### 4 貝類生息環境プランクトン等調査

安全な二枚貝を供給するため、周年にわたり、本県沿岸域で生産されるホタテガイやムラサキガイなどの毒化状況(下痢性貝毒、まひ性貝毒)や、毒化原因プランクトンの出現動向を調査します。(高坂主任研究員ほか)

#### 5 EU向け輸出ほたて安全対策事業

EUへホタテガイを輸出するための条件が満たされているかどうか、陸奥湾東部海域において6月、11月、12月から3月までプランクトン等のモニタリングを行います。(高坂主任研究員ほか)

#### 6 漁業後継者育成対策事業

平成18年度末で廃止された海洋学院に代わり、活力ある漁業の担い手の育成確保のため、漁業の基礎的な知識、技術を身につけるための短期研修(通称賓陽塾)を実施します。(吉田研究管理員、小笠原技師ほか)

### ほたて貝部

部長 工藤 敏 博

4月の人事異動で水産振興課に転勤された小坂前部長に代わり、浅海環境部からほたて貝部に異動しました。留任の吉田主任研究員、山内主任研究員、川村技能技師とともに下記業務に取り組みますので、よろしくお祈いします。

#### 1 ホタテガイ増養殖情報高度化事業

天然採苗予報調査、垂下養殖実態調査、地まき実態調査、実験漁場での実証試験等ホタテガイ増養殖の安定と効率化のための試験・調査を実施し、各種情報を提供します。(山内主任研究員ほか)

#### 2 海面養殖業高度化事業

水温、波浪、潮流によるホタテガイのへい死や成長への影響を把握するため、これらをモニタリングするとともに養殖施設の動揺による影響シミュレーションや実証試験を実施します。(吉田主任研究員ほか)

ンや実証試験を実施します。(吉田主任研究員ほか)

#### 3 美味しいホタテガイ生産手法開発試験

消費者が美味しいと感じるホタテガイを作る養殖方法を開発し、青森県のホタテガイのブランド化を図ります。(吉田主任研究員ほか)

#### 4 ほたてがい適正養殖可能数量制度(TASC)システムづくり事業

ホタテガイ適正養殖可能数量制度(TASC)を導入するために、陸奥湾におけるホタテガイの環境収容力、漁家・加工業者の社会的情勢に合った組合別の割当数量を算出します。(吉田主任研究員ほか)

#### 5 良質大型活ほたてがい生産拡大事業

良質大型活ホタテガイの生産・出荷体制づくりを進めるため、養殖マニュアルを作成します。また、病気感染防止に向けた安全・安心な養殖システムを構築するとともに県産ホヤの種苗生産技術を確立します。(吉田主任研究員、山内主任研究員ほか)

### 魚類部

部長 吉田 由 孝

4月の人事異動で小泉技師が同所浅海環境部に配置換えになり、八戸水産事務所から柳谷研究管理員が転入しました。留任の中西研究管理員、廣田技師、尾鷲技能技師とともに、下記事業に取り組みますのでよろしくお祈いします。

#### 1 資源増大技術開発事業(まだら)

陸奥湾産マガラの資源回復を図るため、栽培漁業技術開発(安定した種苗生産技術の開発、放流効果の把握)を行います。(中西研究管理員ほか)

#### 2 資源増大技術開発事業(まこがれい)

マコガレイの栽培漁業を推進するため、安定した種

苗生産技術の検証、系群特性の把握及び標識放流による放流効果の把握を行います。(廣田技師ほか)

#### 3 きつねめばる資源増大技術開発事業

キツネメバルの栽培漁業を推進するため、種苗生産、中間育成及び放流技術の開発を行います。(柳谷研究管理員ほか)

#### 4 うすめばるを育む清らかな里海づくり事業(ウスマバル親魚養成)

調査用人工種苗確保のための親魚養成を行います。(柳谷研究管理員ほか)

#### 5 海産魚類防疫巡回指導事業

海産魚類増養殖場における魚病被害の軽減及び蔓延防止を図るため、魚病診断・指導等を行います。(吉田部長ほか)

### 磯根資源部

部長 桐原 慎 二

高橋進吾主任研究員が水産総合研究センターに転出し、代わって漁港漁場整備課から藤川義一主任研究員が転入いたしました。山田嘉暢主任研究員、松尾みどり技師とともに、以下の試験研究を進めてまいりますので、よろしくお祈いいたします。

#### 1 日本海沿岸の藻場造成と海藻養殖技術

ハタハタの産卵場、エゴノリの着生基質、ウスマバル稚魚の育成場として、本県日本海沿岸漁業生産の上重要な役割を果たしているホンダワラ類の藻場機能を検討し、養殖技術を開発します。また、モズク、クロモ、アカモク、ツルアラメなど地域の特産品となる海藻について養殖技術を検討します。関連事業：多機能静穏域関連調査(大戸瀬地先)、うすめばるを育む清らかな里海づくり事業・藻場機能調査(風合瀬地先)、前潟関連調査(車力地先)、もずくを育む清らかな里海づくり事業(大戸瀬地先)、日本海藻場礁開発試験事業(岩崎地先)(藤川主任研究員、山田主任研究員ほか)

#### 2 陸奥湾沿岸の藻場造成と磯根資源維持管理技術

アイナメの産卵場、カレイ、メバル、カニ類の育成

場、ナマコ、ウニの餌料として重要なアマモ類藻場の造成効果を検討します。また、近年価格上昇に伴い漁獲量が増加したナマコについて、資源の有効な管理や増殖技術、効率的な種苗生産手法を検討します。関連事業：陸奥湾スゲアマモ藻場移植調査(川内地先)、なまこの計画的生産安定技術研究開発(陸奥湾4地先)、なまこ資源管理・種苗生産推進事業(栽培漁業振興協会ほか)(松尾技師ほか)

#### 3 津軽海峡-太平洋沿岸の磯根資源維持管理技術

コンブ漁場、アワビ、ウニの餌料として、津軽海峡から太平洋沿岸で重要なコンブ藻場について、漁業者による磯焼け回復の実態や効果を調査します。また、モズク養殖技術や早生で品質が優れたマコンブ種苗の作出に取り組めます。関連事業：まこんぶ品種創出試験(八戸、三厩地先)、もずくを育む清らかな里海づくり事業(今別、佐井地先)、環境生態系保全活動支援調査実証事業(佐井、尻屋地先)、尻屋磯根資源調査。(桐原部長、山田主任研究員、藤川主任研究員ほか)

#### 4 海藻養殖や磯根資源増殖技術指導

エゴノリ、スジメ、ガゴメなどの採苗・養殖技術や、貝殻を利用したナマコ増殖場造成技術などを、引き続き指導してまいります。(山田主任研究員)